

WISS2024 開催にあたって

塚田 浩二*

本論文集は、日本ソフトウェア科学会インタラクティブシステムとソフトウェア (ISS) 研究会が主催し、2024年12月11日(水)から12月13日(金)にかけて、苗場プリンスホテル(新潟県南魚沼郡湯沢町)で開催される「第32回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ」(Workshop on Interactive Systems and Software: WISS2024)での発表をまとめたものです。

WISSは、伝統的に2泊3日の泊まり込み形式で開催されており、例年150名以上の参加者が朝から深夜まで深い議論を行ってきました。Covid-19のために、オンライン/ハイブリッド開催された年もありましたが、今年のWISS2024では240名以上が参加して現地開催されます。

WISS2024のテーマは、「開かれたWISS」です。これまでのWISSでは、議論を活性化するための様々な工夫が行われてきましたが、その弊害として発表形式が複雑化してしまい、常連でも混乱するような状態になっていました。そこで、WISS2024では以下のように発表形式を整理しました。

- 登壇発表の種別(ロング枠/ショート枠/議論枠)を廃止し、ショート枠相当に統一する。
- ロングティザー発表を廃止する。代わりに、登壇発表を不採択となった場合、デモ発表への優先投稿制度を設ける。
- 国際学会・国際論文誌採択論文発表を名称変更し、国際学会招待発表とする。デモ・ポスター発表についても、デモ発表とする。
- WISS Challengeを正式な発表カテゴリとし、予稿集にも掲載する。

WISSの「顔」となるWebページも整理し、全ての発表形式/締切を一覧可能にしたり、デモ発表プログラムに代表画像を追加する等、常連以外の参加者にもWISSの魅力伝える工夫を行いました。

登壇発表には、各論文に対して4名の査読者(内プライマリ査読者1名)を割り当てて査読を行い、採否判定会議での議論を経て、36件の投稿に対して21件の論文を採択しました。一部の論文は条件付き採録とし、査読者と著者による修正プロセスを経

て、論文の完成度を高めています。登壇発表の論文は、本予稿集に採録理由と併せて掲載しています。

国際学会招待発表には、6件の投稿があり、いずれにも利害関係のない4名の審査員による審査を行いました。その結果、4件の登壇発表/1件のデモ発表が招待発表として実施されます。

デモ発表については、近年締切の前に発表枠が埋まる問題が続いており、今年は約3週間前に埋まってしまいました。そこで、募集時の発表枠の制限を撤廃して、(1)デモ発表の申し込み件数に応じてデモ会場を増設する、(2)増設で対応できない程多くの投稿があった場合、追加審査を行い採否を決定する、という方針に転換しました。その結果、今年は会場の増設のみで対応でき、108件のデモ発表を採択しました。これと先の1件の招待発表に加えて、17件の登壇デモ(登壇発表される論文のデモ発表)や、9件のスポンサー展示を含めて、3日間で135件の発表が行われます。

WISS Challengeは、学会での議論等を活性化させるシステムを募集するユニークなカテゴリですが、近年は応募が少ない状態が続いていました。そこで、WISS2024では、前述したような工夫を行い、Webページでも存在感を高めることで、7件の投稿が集まり、審査の結果、6件の発表が行われます。

さらに、今年はWISS30周年企画として、WISSの立ち上げから関わり、現在も第一線で活躍される3名の先生方(増井俊之氏、暦本純一氏、小池英樹氏)をお招きした特別講演も行います。先生方の発表・議論を通してWISSの30年を振り返り、その革新性を未来に繋いでいければと思います。

私事になりますが、修士2年の時(2001年)にWISSに初参加し、登壇発表/デモ発表を通じた議論や、ナイトセッション等を通して多くの個性的な研究者と交流する中で、研究の面白さ・奥深さを感じました。当時は某メーカーに就職するつもりでしたが、道を踏み外して(?),研究者となる大きなきっかけとなりました。このWISS2024での体験/出会いが、多くの人に価値あるものになればと思います。

最後に、登壇発表をはじめとした全ての発表にご投稿頂いた皆様、スポンサー企業の皆様、協賛学会関係者の皆様、WISS2024のプログラム委員/運営委員の皆様へ深く感謝いたします。

* 公立はこだて未来大学, WISS2024 プログラム委員長